

わが国の Child Death Review

(予防のためのこどもの死亡検証)

こどもの傷害予防ガイダンス2025

こども家庭科学研究費補助金(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業(健やか次世代育成総合研究事業))

「子どもの死を検証し予防に活かす包括的制度を確立するための研究」研究班(研究代表者 沼口 敦)編

わが国の Child Death Review
(予防のためのこどもの死亡検証)
こどもの傷害予防のガイダンス 2025

こども家庭科学研究費補助金
(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 (健やか次世代育成総合研究事業))
「子どもの死を検証し予防に活かす包括的制度を確立するための研究」
研究班 (研究代表者: 沼口 敦)
分担研究「こどもの傷害予防にかかる情報収集と予防策の探索」班
(代表: 植松 悟子) 編

はじめに

どの子どもも、健康な個人として愛情や喜びや達成感に包まれて成長し生きる権利がある。子どもは大きな可能性と創造性を秘めた存在であり、社会に貢献をするばかりではなく、家族やその他の者に幸福をもたらす存在でもある。

子どもを失うことは、社会全体にとって非常に大きな損失であり、また家族にも大きな悲しみ、痛み、悲嘆をもたらす。死亡の検証にあたった私たちは、このことを忘れることなく、子どもを失ったご家族に心から追悼の意を表したい。そして、この取り組みに携わった全ての者が、自身の働く環境において、子どもたちがよりよい、安全で健康な人生を送れるように役割を果たすと信じ、その後押しをしたい。

こども家庭科学研究費補助金事業「子どもの死を検証し予防に活かす包括的制度を確立するための研究」研究班（研究代表者：沼口 敦）は、わが国でどんな形式のチャイルド・デス・レビュー（CDR；予防のためのこどもの死亡検証）が望まれるかを探索し、同モデル事業が円滑に開始されるための支援を行う、3カ年の研究を実施してきた。その一環として、子どもの傷害事象を予防するための既存制度やガイダンス等を整理し、予防策を提言する上での基本的な背景事象をまとめる必要があることに気づかれた。

本ガイダンスは、この目的で編纂されたものである。微力ではあるが、これからCDRに取り組もうと決心した人たちにとって、現段階での実践的なガイドとなることを願っている。そして願わくば、このガイドが将来にわたって普遍的な道標として存在し続けるのではなく、ここから生まれた知見から更に新たなガイドが生まれ、次の時代へとつながっていくことを望んでいる。

2025年3月

こども家庭科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業（健やか次世代育成総合研究事業））「わが国の至適なチャイルド・デス・レビュー制度を確立するための研究」研究班
分担研究「こどもの傷害予防にかかる情報収集と予防策の探索」班
（代表：植松 悟子）

目次

はじめに

第1章：傷害予防総論

- 1-1. こどもの傷害の背景
- 1-2. こどもの傷害に対する医療提供の状況
- 1-3. 地域差
- 1-4. 検索のしかた

第2章：傷害予防各論

- 2-1 窒息
- 2-2 誤嚥
- 2-3 誤飲
- 2-4 中毒
- 2-5 墜落
- 2-6 溺水
- 2-7 熱傷
- 2-8 環境傷害
- 2-9 交通外傷
- 2-10 睡眠関連死

第3章：さくいん

執筆者一覧（五十音順）

植松 悟子	国立成育医療センター救急診療部
内田 佳子	国立成育医療センター救急診療部
梅本 正和	うめもとこどもクリニック
大平 智子	宮崎大学小児科
小鹿 学	山梨大学小児科
小谷 泰一	三重大学法医学講座
佐々木 理	母恋天使病院小児科
仙田 昌義	国保旭中央病院小児科
富田 慶一	国立成育医療センター救急診療部
沼口 敦	名古屋大学医学部附属病院救急・内科系集中治療部
森脇 太郎	国立成育医療センター救急診療部

企画デザイン

NPO アーツプロジェクト